

- 日 時:令和4年6月24日(金)10:00~10:50
- 場 所:潮来市役所3階 第一会議室
- 教 育 長:横田直樹
- 出席委員:小松崎修平、塚本健二郎、飯田三矢子、茂木悦男
- 事 務 局:埴教育部長、村田学校教育課長、吉川生涯学習課長、大塚給食センター長
大川学校教育課長補佐、泉学校教育課係長

○ 傍聴者:なし

1 開 会

2 あいさつ

- ・横田教育長から開会挨拶
- ・会議録署名人として茂木委員が指名された。

3 案 件

- 日程第1 議案第27号 潮来市教育行政評価委員会要綱の制定について
 - ・村田学校教育課長から説明する。
 - 全員異議なく、原案のとおり可決した。
- 日程第2 議案第28号 潮来市社会教育委員及び潮来市公民館運営審議会委員の委嘱について
 - ・吉川生涯学習課長から説明する。
 - 茂木委員:委員の人材育成等も必要なものと考えているがどうか。
 - 吉川生涯学習課長:課題等を整理し検討していきたい。
 - 全員異議なく、原案のとおり可決した。

4 教育長報告

- ・横田教育長から5月25日から6月24日までの諸行事報告が行われた。

5 業務事務日程について

- ・各課長から6月24日から8月31日までの行事予定について説明

6 教育委員会所管事項に関する質疑

- ・茂木委員:新型コロナウイルス感染症について、沈静化しつつあるが、その現状と対策をお聞きたい。
また、マスクについて、これから暑くなり、熱中症等の心配ある。学校等への指導はどのようになっているのか。
- 五喜田室長:先週一部の学校で学級閉鎖等があった。他校では感染者はでてない状況にある。
学校においては、再拡大も考えられるので、三密回避や消毒等の徹底を行っていくよう指導している。
マスクについては文科省から指示に従い登下校や体育の際など児童生徒へ外すよう学校から指導をしている。
ただ外すように指導しても児童生徒の中には、マスクを外すことに抵抗感のある児童生徒もいる。個人を尊重し適切に対応を図っていきたい。熱中症対策として、水筒の準備や登校等の際に学生服ではなく、ジャージなどで学校生活を送ること、熱中症警戒アラートが発令された場合には、屋外での体育や部活動の中止等を実施していく。
- 茂木委員:特に低学年については、難しいと思うので、学校での適切な声かけ等を心がけてほしい。
- 飯田委員:マスクに対する正しい理解を得るため、地域への周知も必要ではないか。
- 五喜田室長:ただいまの意見を踏まえ、保護者から地域の方々へ周知を広げられるよう検討していきたい。
- 横田教育長:未だマスクをして登校等をしている児童生徒を見かける。学校と共有を図りながら対応していきたい。
- 小松崎委員:市外のある小中学校を訪問した際に、来客用の自動体温計の設置がない学校が見受けられ、新型コロナウイルス感染症に対し、若干、危機管理の面でゆるくなりつつある状況が見受けられた。
そういった中で、潮来市においては気を緩めず、保護者を含め、対応をしていっていただきたい。
- 五喜田室長:正常時こそ、新型コロナウイルス感染症に対する対策の維持、継続が重要であると考えている。各学校に対し気を引き締め、対応を図るよう共有を図りたい。
- 埴教育部長:先週一部の学校で感染があり学級閉鎖をしたが、傾向としては学校での感染は稀である。家庭内での感染が多い傾向にある。それを踏まえると、学校での感染対策については、徹底ができていないものとする。
- 小松崎委員:文科省のホームページにおいて、6月14日大臣会見等でコミュニティスクールの倍増を目指す。とあった。
現状での本市の状況はどうか。また、タブレットのペーパーレス化については、どのようになっているのか。
- 埴教育部長:(コミュニティスクールの概要説明)学校に地域の方々に参加・参画する組織。県の導入率が低い状況にある。
今後、計画的に導入に向け準備等を行っている状況にある。モデル校の選定をしていきたいと考えている。
- 五喜田室長:タブレットについて、活用が図れている状況にある。臨時休業等の中でも、学びを止めず実施できている状況にある(学校での活用方法の実例を説明する)。
学習の中でタブレットの成果はあったが、すべてそれで解決できる訳ではない。直接の体験や対面での協働的な学び、文字を直接書く良さもあると考える。本年度はタブレットの効果等を学校と協力して精査していきたいと考えている。

茂木委員:タブレットについては、あくまでも手段であって目標ではない。学校の教育目標や子どもたちの学力向上のためにどのように使用していくのが重要である。

また、コミュニティスクールについて、何を、どのようにしていくのか方針を定めることが必要ではないか。そのためには、先進的なところを踏まえ、検討していったらどうか。

埴教育部長:現在のコミュニティスクールでは教職員の人事にも介入できるような面も含まれているが、鹿行5市において社会教育主事の方々が先進地を視察して検討した中には、人事等を除いてコミュニティスクールの運営をしている自治体もある。良いところを取り入れ、課題等を整理し、本市にあったコミュニティスクールの検討を図っていきたい。

茂木委員:コミュニティスクールについては、児童生徒をはじめ、地域の方々も、学校長や教職員も自治体も取り入れてよかったというようなものにしなければならない。十分に検討して進めてほしい。

横田教育長:コミュニティスクールについては、関係者を含め充分検討をしながら進めていきたい。

また、タブレットについて、学校を訪問した際、児童生徒にとっては必要不可欠になりつつある半面、教室での保管状況等において、あまり好ましい状況にない面もあった。学校における児童生徒のものに対する意識醸成が必要であるのではないかとと思われる部分であった。学校長会において学校長へ指導を行った。

小松崎委員:文科省大臣が「イノベーション白書」の中で「科学技術イノベーション立国を目指す」とあった。

新聞等においては、学校で計測機器体験や重機操縦等の記事があり、身近な体験によりイノベーションを児童生徒に対し興味、関心を湧かせ、将来に繋げていくものとして実施しているものであると思うが、本市の教育の中での状況等は、どのようになっているのか。

五喜田室長:本市ではキャリア教育の中で、職業体験の一部において工場への体験等により実施しています。

茨城県の高等教育において、STEAM教育により論理的思考力や問題解決能力といった力を身につけ、高めていき、今後のIT社会等に順応した競争力のある人材育成を目指しているため、これから小中学校においても、充実が図られていくものと考えます。

*STEAM(スティーム)教育とは・・・Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学・ものづくり)

Art(芸術・リベラルアーツ)、Mathematics(数学)の5つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念

横田教育長:現在、本市の状況等においては、イノベーションに特化しているものはなく、今後、充実されていくものと考えている。

7 その他

(1)第44回水郷潮来シティレガッタ大会について

吉川生涯学習課から組合せ等詳細事項について説明する。

(2)次回の定例会の開催日程について

・令和4年第7回教育委員会定例会について、7月25日(月)に開催(予定)することを確認する。

8 閉 会

・横田教育長により閉会した。

議長(教育長)

横 田 直 樹

会議録署名人

茂 木 悦 男